

「課題名：人工知能を用いた気管挿管支援システムの開発」について

○ 研究の意義・目的

重症の患者さんに対して口から気管にチューブを入れて呼吸を助ける処置を気管挿管と言います。気管挿管を行うためには喉頭鏡という器具を使いますが、最近ではビデオ喉頭鏡という新しいタイプの器具が開発されました。ビデオ喉頭鏡は先端に小さなカメラを装備しており、モニターで喉の奥を見ながら挿管する器具です。ビデオ喉頭鏡では手技が比較的容易で時間もかからず、かつ喉の奥を確実に見ながら実施することができるので確実・安全であると考えられています。しかし、振動や体位など気管挿管を困難にする因子が多い病院外での気管挿管では特に、食道挿管など気管挿管の失敗の可能性は常にあります。広島大学病院では、より安全で確実な気管挿管を実施するために人工知能を応用した気管挿管支援システムの開発を行っています。そのため、当院高度救命救急センター、共同研究機関である県立広島病院において気管挿管を実施された、あるいは広島市消防局管内で救急救命士により気管挿管をされた患者さんを対象として、以下の要領にて画像データの収集を行っています。

なお、この調査は通常の救命救急医療を実施した後の調査ですので、患者さんに対して不利益になることは決してございません。

○ 研究対象者

2017年1月4日（委員会承認日）～ 2022年6月30日までに、①広島大学病院高度救命救急センターあるいは県立広島病院救命救急センターを受診あるいは入院中に、気管挿管を行われた患者。

②広島市消防局管内にて、救急救命士による気管挿管を行われた患者。

○ 研究方法

本研究は、実際の気管挿管の画像データを使用していきます。画像データに含まれるのは、口の中から喉の奥までの画像であり、個人が特定出来る情報はありません。

以下の機関と共同で研究します。

・県立広島病院（役割：画像データの収集）

・クロスコンパス・インテリジェンス社

（役割：人工知能に関する技術協力（画像データを用いた人工知能の学習を担当））

○ 研究期間 2017年1月4日（委員会承認日）～2022年12月31日

○ 個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせください。

*研究に資料を提供したくない場合は、処置（気管挿管）を受けた翌日までにお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。なお、既に誰のものかわからないように匿名化した後であった場合等は、あなたのデータを削除出来ないこともあります。……………

お問い合わせ先

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5456

医系科学研究科救急集中治療医学 教授 志馬 伸朗（研究責任者）
 広島大学病院高度救命救急センター 助教 鈴木 慶（担当者）